

サウル王について

1. この学びのシリーズで、サウル王について学ぶのは2回目です。1回目の学びでは、主に1サム24章から、彼の性質と生涯について学びました。今回は、31章の彼の死から学びます。

2. ペリシテ人はサウルの息子たちを殺し(31:1)、サウルにも大きな傷を与えました。彼は難しい立場にいました。状況は極めて悪いが、最後まで戦うべきか。ペリシテ人に降伏するべきか、そして捕えられて彼らに蔑まれて痛めつけられるか。それとも自害するか。

3. 彼は最悪の状況のために、自害するしかなかったのでしょうか？もしその答えがYesであるなら、いろいろな自殺のケースは正当化されるでしょう。聖書は自殺を許していません。この31章で、イスラエルの生ける神様の事は記されていません。士師記16:28でサムソンが祈ったようには、サウルは祈っていません。似た事柄がいくつかはありますが、士師記16章のサムソンの状況と激しい行動は、1サム31章のサウルとは大きく違っています。

4. この章の終わりに、ヤベシュ・ギルアデの勇士が登場します。それはサウルの、王としての始めの頃の業績を思い出させます。彼はその町を、異教の敵から救い出しました(11章)。

5. サウルは31章で、敵から神の民を守ろうとしていたのでしょうか。しかし彼は、神様の助けなしに敵を負かすことはできませんでした。彼は自分自身も守ろうとしていました。

サウルはどんな人物でしたか？

下のリストを参考にして、1サム31章からサウルについて考えましょう。彼についてあてはまるものはどれか、そうでないものはどれかを考え、その後で右ページの空欄に、サウルについてまとめてみましょう。

イスラエルの王
ペリシテ人と戦う
イスラエルの神のために戦う
イスラエルの勇士／代表
3人の有名な息子の父 (31:2)
ヨナタンよりも強い戦士
ヤベシュ・ギルアデで敬われた(31:11)
イスラエルの過去の英雄 (11:1-15)

悲劇の人物
ペリシテ人を恐れた (31:4)
必要な助けがなかった (31:1-2)
肉体的には強かったが霊的には弱い
戦い続けられなかった
主の助けなし
自害せざるを得なかった
全て悪かった
自己中心

ペリシテ人の戦利品
ペリシテ人に殺された (31:3-4)
ゴリアテのように首を...(31:9, 17:51)
武器を奪われ、さらされた (31:9-10)
神様のために悪い証し
完全な敗北 (31:6)

サムソンのよう (士師 16)
アヒトフェルのよう (2サム17:23)
ダビデのよう (1サム 30:6)
墮落したクリスチャン指導者のよう

サウルは...

1サム31章を読み、そこからわかるサウルの人物像を説明して下さい。

適用

サウル

サウル王は、イスラエルの悲劇です。1サム11章でヤベシュ・ギルアデの町を救い、良いスタートを切りましたが、31章で彼は自害してその人生を終えました。17章でゴリアテとその剣がイスラエルの戦利品となったように、彼の武具と首はペリシテ人の戦利品となってしまいました。何よりも、彼はイスラエルの神様に対して、悪い証しとなりました。

サウル王は...



ペリシテ人は、戦争というのは基本的にそれぞれの国の神々の戦いだと考えていました。彼らは、サウルはただの王ではなく、イスラエルの神の代理として見ていたのです。16章から先、彼は真のイスラエルの指導者ではなくなって、神様も彼と共におられなかったのですが。31章で完全に敗北したのは、主ではなくサウル自身でした。そこに神様の事が出ていないのは、おそらくその理由だったでしょう。

ヤベシュ・ギルアデの勇士たちが王やその息子たちの遺体を救い出したのは(31:11-13)、その章のハイライトであり、ペリシテ人の勝利を全面的に認めない事でした。また、サウルが11章でした偉業が思い出されます。ですから、彼の生涯の終わりは31章の敗北でしたが、イスラエルの最初の王は最初から最後までずっと悪かったわけではない事がわかります。

それでもサウルの自害は、彼の生涯の記録の最後の汚点となりました。それはまた、彼のした失敗は大体において、自分自身でつけた致命傷であった事を示唆しているようです。彼を殺して王座から引きずり降ろしたのは、彼の敵ではなく、自身の罪の結果でした。ダビデが2回もサウルを殺すチャンスがあった時にそうしなかったように、彼の道具持ちは彼を殺す事を拒否しました。それでも、サウルは自害し自分の王国を破滅させました。サウルが失敗して死んだ事は、ダビデによるものではありません。

サウルの事は、神様に仕える者全て、特に指導者たちに対する警告です。パウロが1コリ10:12や1テモテ4:16で命じているように、気をつけなければなりません。士師記に出ているサムソンの生涯とその死も、サウルほどの悲劇ではありませんでしたが、同じく私たちに警告を与えているものです。